



神奈川県を宇宙から見た「宙瞰図」。地球観測衛星 Terra に搭載された ASTER VNR が観測した画像を、国土地理院の標高データを用いて立体感を表すように演算を行った CG (コン

ピュータ・グラフィクス)。神奈川県立生命の星・地球博物館のオリジナル画像で、宙瞰図というネーミングもオリジナル。元データ (p71 参照) を左右に約 160% 拡大したもの。

## “かながわ” 歴史の旅“を” すること

江戸時代も中頃、人々はこぞって旅に出た。旅の大衆化が始まる。

その目的は比較的容易に関所を通過することができた神仏詣でと療養の旅。五街道や脇往還が整備され、宿場町や一里塚など旅の環境も整った。そして、旅へ誘う決定打となったのが、本や浮世絵などの版木本の普及による情報の大衆化であった。『東海道中膝栗毛』や『奥の細道』、『東海道五十三次』や『富嶽百景』そして『旅行用心集』などから、旅の面白さ、楽しさ、そして恐ろしさをも感じつつ、まだ見ぬ遠い未知の世界へ思いを馳せたのである。

多くの人々が往来した神奈川の変化に富んだ名所も、浮世絵として当時の様々な生活文化とともに描き表された。大山講の一行が描かれた「金川ヨリ横濱遠見之図」もその一つであり、大山詣での隆盛ぶりをうかがい知ることができる。

民俗学者の宮本常一は「土地の記憶」といったが、歴史の旅はその土地の記

憶を呼び覚ますことであり、観る人に浮世絵のようなデジャブな記憶を蘇らせてくれる。

記憶をたどる旅といえば、映像の舞台を訪ねるロケ地観光がある。ただ違うのは、映像としてのロケ地観光からみえるものはバーチャルな景観であり、歴史というロケーションを訪ねる旅は今に繋がるリアルな風景を感じ取るところにある。

歴史観光地は、往々にしてその特徴ある時代の断面としてとらえられることが多い。しかし歴史は断面ではなく時の流れであり、歴史の旅はその時の流れを行き交うことである。また、大山詣でが江の島と強いつながりを持つように空間も多様に絡みあう。

かながわの歴史を旅する人々に、かながわの多彩で深奥な歴史の記憶を呼び覚まし、ゆっくりと流れ続ける時の流れと、複雑に絡み合ってきた空間の繋がりを解きほぐすことにより、昔をそして今をリアルに伝える。それが伝え聞く双方にとっての「かながわ歴史」の醍醐味であるといえよう。

かながわ観光大学  
推進協議会会長  
松蔭大学教授 古賀学



昭和3(1928)年に建てられた4代目の神奈川県庁本庁舎。屋上からは横浜港が一望できる。



日露戦争で日本を勝利に導いた連合艦隊旗艦「三笠」は、横須賀で記念艦として保存展示。



開港後の異船を描いた五雲亭貞秀作「加奈川横浜二十八景之内」一部(国立国会図書館蔵)



当時の風景や風俗を描いた広重作「東海道五拾三次之内 藤沢」(神奈川県立歴史博物館蔵)



早雲に始まる北条五代が築いた小田原。街を象徴する小田原城は名城としても名高い。



鎌倉大仏として有名な高徳院本尊の国宝銅像阿彌陀如来坐像は日本を代表する文化財。